

事業所名	グループホーム日だまりハウス (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成17年 2月 2日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護支援専門員・社会福祉主事・介護福祉士・ホームヘルパー2級 訪問介護員(7年) B:元職 介護型療養病棟看護師 資格・経験 介護支援専門員・看護師(8年以上)
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念			
番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ○介護理念に掲げているように、入居者の方はお客様でなく、主役であり、本当の「生活」を目指していると感じた。具体的には、ゆったりとした自由な暮らし、自由と安らぎのある暮らし、安全と衛生の保たれた暮らし、能力が最大限発揮できる暮らしが目標にされていた。 ○そして、能力に合わせて食事づくりや畑での野菜づくり、洗濯の取り入れ、車いすの方も畳に上がりコタツに入って昼寝をしていたり、畑仕事ができなくても畑の端に座って土にふれたりする場面を拝見し、そんな当たり前の田舎暮らしをスタッフが一緒に過ごしながら支えていると感じた。		

II 生活空間づくり			
番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ○リビングは明るく、楽しく会話をしたり食事をしたりできる空間とし、個室は静かにゆっくり休めるようにと考えられた設計であり、ほっと安らげる家庭的な雰囲気づくりができている。 ○スタッフは「静」と「動」を意識して介助している。内装も家庭的であり、各部屋に洗面台、クローゼット、洋服かけなどがある。和室または洋室がある。各自、自由に私物を持ち込んでいる。身体的に可能な利用者は布団の上げ下ろしも自分でしており、生活の中で身体機能の維持を図るなど、過去の経験から「できること」と「介助が必要なこと」を見極めている。		

III ケアサービス			
番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果			
講評			
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) ○平屋の大きな新しい家、その庭では洗濯物が広々干されている。吊るされた干し柿をとって食べる人、畑で白菜をとる人、昼食の食材にするほうれん草を摘む人、歩けなくても畑のあぜに座り土に触れる生活・・・そこにはどこにでもある普通の田舎暮らしがあった。東北の田や畑に囲まれ、落ち着いた環境にあり、日だまりのように暖かな光の差し込むリビングからは、東と南に広がる広い畑が一望できる。入居者の笑い声と穏やかな雰囲気が大変印象的だった。経営者もスタッフも入居者も「一緒に生活している」という様子が感じられた。 ○「高齢になると、エアコンの冷暖房は嫌う方が多い」と寒い夜は、湯たんぽを使用したり、「90歳を過ぎても美味しいご飯を食べてほしい」と入居してから歯科通院の介助をし、入れ歯を作るなど、普通の生活が送れるように支援している。入居当時歩けず、痴呆症状が激しく現れていた方が、歩いて散歩に行けるようになっていた。 ○スタッフの年齢層は、入居者の孫や子供、同年代と各層に分かれていて、「大家族」のように世代間の良好な関係が自然な形で築かれていると感じた。昼食時に、入居者の一人の「いただきます」の声で、一緒に食事を頂き、隣を気遣う風景が入居者同士の思いやりや支えあう関係を感じさせた。 ○外出する機会が多く、温泉やお寺まいり、地域の運動会や花火大会などに参加している。またボランティアによる演奏などの時は近所のお年よりもホームに招くなど地域との交流も盛んであり楽しい生活が伺えた。 ○「お客様」ではなく、「生活者」として「できることは自分でしてもらい身体機能を維持していく」という姿勢があった。また「楽しい生活」を支援している。			
特に改善の余地があると思われる点(記述) ○改善と言うものではありませんが、更に期待するとなれば、研修の機会を持つことが望ましいと思いました。団体が主催するもののほかに、管理者・スタッフで勉強会を開くなどの方法もあるのではないのでしょうか。また、日だまりハウスでされているような「田舎生活で生き生きと過ごしている様子」そのものを、他のホームのスタッフにも発表していかれる機会があれば良いと感じました。			

III ケアサービス(つづき)			
番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	病室の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ○入居前に畑で野菜作りが得意だった方には野菜を、調理など働きにきていると思っている方には調理を、とそれぞれの生活歴に合わせて役割があり、スタッフも生活者の一人として一緒に活動していた。 ○これまでに送ってこられた生活や役割を考慮し、入居者の方が生き生きと過ごせる場づくり(調理・食事の後片付け・畑仕事・洗濯掃除等)を大切にしており、そのことが入居者のにこやかな表情に表れていた。		

IV 運営体制			
番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		○
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ○「お客様」ではなく「生活者」として、それぞれの能力に応じ、生活を支援している。スタッフも入居者も同じ動きをし、共に生活しているという印象であった。 ○生活リハビリを通して心と体の機能低下を防ぎ、活動範囲を広げ外出や旅行への機会を支援する。情報・意見交換やヒヤリハットの再考を毎月カンファレンスで行い、同じことを繰り返さない為の方策や対処方法を全員で考え取り組んでいる。		